

2016 年度総会開催—「菜宴」にて

2 月 11 日（水曜日・祝）、「菜宴」（奈良市小西町）にて奈良日仏協会の 2016 年度総会が開かれました。会長挨拶に始まり出席者 18 名、委任状 58 名で総会成立を確認。三野会長を議長に議事が進められ、次の議案が承認されました。1) 2015 年度活動報告、2) 2015 年度決算報告・会計監査報告、3) 役員選出、4) 2016 年度活動計画、5) 2016 年度予算。

2015 年度の決算は、ホームページの修復と新規作成のために、予期せぬ支出約 12 万円があったにもかかわらず、三野会長の率先により事務局で経費の削減に努め、約 6 万 5 千円の黒字となり、繰越残高が約 136 万 7 千円となりました。決算は監査報告と合わせて承認されました。

役員選出では理事・監事候補が原案通り承認されました。仲井秀昭氏は任期満了により退任、2016 年度の役員は再任を含めて以下の通りです。会長：三野博司、副会長：ジャメ・オリヴィエ、野島正興、事務局長：浅井直子、会計：井田眞弓、理事：濱 恵介、中浦東洋司、南城 守、藤村久美子、中辻純子、高島眞貴子、監事：三木正義の各氏。

新年度の活動計画では、来日フランス人やフランコフォンの留学生を迎えての文化交流活動をより積極的に進め、2015 年度に復活したフランス語ガイドクラブを継続発展させることを目指し、予算案ではこれまでよりも多くの予算を組みこんでいます。なお、前年度決算と今年度の予算の詳細を、別紙（折込）で資料を配布しますので、ご参照ください。

最後は総会に出席した役員以外の会員の方に自己紹介をお願いし、日頃あまり顔を合わせる事のない会員の生の声を聞く貴重な機会となりました。また、今年は 58 名の委任状が寄せられました。総会には出席できなくても奈良日仏協会の活動に関心を寄せてくださっていることと受け止め、身の引きしめる思いで今年度の事務局運営につとめてまいりたいと思います。（事務局）



総会後の懇親会

三野会長の開会の挨拶に続いて、ボサノヴァのギターとヴォーカルのデュオ SALT & URIBOSSA の演奏から始まりました。二人の奏でるギター音楽とハーモニーの歌声が会場に響き出すや、聴衆は音楽に引きつけられました。曲の合間の MC がまた素晴らしく、「ボサノヴァ」についての解説や『星の王子さま』の「大人は誰もがはじめは子供だった」という文を引用しながら含蓄の深いお話をされ、会場の共感を誘いました。続いて、いつものごとく

《事務局からのお願い》 会員名簿を更新する時期になりました。記載事項に変更のある方は 3 月 31 日までに、下記のいずれかの方法で変更内容をお届けください。1) Mail: nara.afj@gmail.com 2) FAX: 0742-62-1741 3) TEL: 0743-74-0371 4) 郵送: 〒630-0244 生駒市東松ケ丘 1-53 浅井方 奈良日仏協会 ※会員名簿に掲載されたメールアドレスを、会員メーリングリスト (ML) にも登録させていただきます。会員名簿への掲載はせずに ML のみに登録を希望される方、会員名簿には掲載し ML には登録しないことを希望される方は、その旨ご連絡お願い致します。

ジャメ副会長ならではのユーモラスな乾杯のご発声、菜宴の美味しい料理と飲み物をいただきながら、参加者同士のにぎやかなおしゃべりに華が咲きました。藤村理事と中辻理事の司会進行のもと、フランス人ゲストの方たちに自己紹介していただきました。会場では会員のみなさんが積極的にゲストに話しかけて、あちこちからフランス語の会話が聞こえてくる、なごやかな懇親会となりました。南城理事からは、懇親会の参加者(29名:会員21、一般3、招待5)に、奈良県立美術館の招待チケットのプレゼントがあり、まだまだ歓談尽きぬなか、野島副会長の言葉で閉会となりました。懇親会の多彩なゲストの方たちから頂いた簡単なメッセージを、以下に紹介させていただきます。

SALT & URIBOSSA (ソルト・アンド・ウリボッサ) からのメッセージ

Bossa Nova は、ポルトガル語では「新しい感覚」「新しい傾向」といった意味があります。それは、特定のリズム・パターンを指すものでなく、フランス語で言うと *Nouvelle Vague* にあたります。私たちは、スタンダードを歌って再現することより、「もっと違う何か」が *Bossa Nova* だと理解して、母国語である日本語のオリジナルを中心に、ジャンルを越えて様々な楽曲を独自の味付けを施してレパートリーにしています。違う何かといっても奇を衒うような斬新さを追求するのではなく、その根底にポルトガル語でいうところの *Saudade* (郷愁、憧憬、思慕、切なさ) が流れていることを大事にしています。形式やテイストを真似るだけでは、*Bossa Nova* とは言えないのです。

今日は、「日仏友好」をキーワードに選曲してお届けしました。最後に演奏した「星の王子さま」は、日仏協会の理事でもある藤村さんとの共演がきっかけで生まれた曲です。演奏後には、たくさんの方があたたかい言葉をかけてくださいました。曲の背景にある物語や演奏に込めた思いが伝わったと感じられることは、ミュージシャンにとっては一番の幸せです。懇親会にも参加させていただき、ゆったりといい時間を過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。(池本達哉、瓜本悟士)



フランス人ゲストからのメッセージ



◆◆◆ Aujourd'hui, Ikuko et moi sommes les invités de Madame Fujimura, pianiste, de l'Association Franco-Japonaise de Nara. C'est non loin de l'aimable Daibutsu qu'elle nous accueille. Nous entrons. Salle intime, musique enveloppante, tranquille, insouciance ... De la bossanova ! Autre océan ... Soudain, présentation ! Ou nécessaire « passage à la moulinette ». Micro, donc, dans lequel je débite quelques sottises. Puis dégustation, et conversation. Vins et bavardages ... France rêvée de Japonais fervents. Est-ce là qu'on recompose la France ? Nous repartons, souriants et comblés. (Ikuko&Pierre Ivanovitch)

きょうは奈良日仏協会のピアニストの藤村さんのお誘いでやってきました。愛すべき大仏様のほど近く場所、中に入ると、心地のよい部屋に、魅惑的で穏やかで快い音楽... ボサノヴァ！ 別の世界が開けます... 突然、自己紹介！ 避けられないお勤めです。マイクを持って、いささか愚考を申しました。続いて軽食におしゃべり、ワインに雑談... 日本人愛好者に夢見られているフランス。こうしてフランスの新しい姿が作られるのでしょうか？ 微笑みと満ち足りた気持で、私たちはフランスに戻ります。(郁子&ピエール・イヴァノヴィッチ)

※パリ在住のヴァイオリニストとピアニストのご夫妻で、このたびシャルトルと姉妹都市である桜井市を訪問されました。

◆◆◆ Un grand merci à tous les membres de l'association pour cette sympathique réunion avec de la bonne musique et un délicieux buffet. Cette année encore, cela a été un grand plaisir de retrouver les membres de l'association que je connaissais déjà et de faire connaissance avec d'autres. J'ai été très touché par la gentillesse de chacun. J'espère que vous serez nombreux à pouvoir participer à la petite présentation du Taima-dera (en japonais et en français) que nous organiserons l'automne prochain ! Encore merci et à très bientôt donc ! (Pierre Regnier)



素晴らしい音楽と美味しい料理の楽しい集まりに、日仏協会のすべての会員の方に御礼申し上げます。今年も私の知っている会員の皆さんと再会し、別の会員の方と知り合うことができ、とても嬉しかったです。個々の会員の皆様のご好意には感じているばかりです。今年の秋に（ガイドクラブで）計画している當麻寺についての（日本語とフランス語での）学習会には、多くの方が参加してくださることを期待しております。（ピエール・レニエ）

◆◆◆皆さん初めまして。私はシャロワ・エミリーと申します。20歳です。ペリゲーというフランス南西部の町に生まれました。幼いころから日本文化に関して興味があります。家族が空手をし、様々な日本人と仲良くし、どんどん好きになる一方であります。私の趣味は旅行をし、新しいものを学び、音楽と美術を楽しむことなどが好きであります。将来には、国際交流と文化交流における仕事を見つけないしたいと思います。（エミリー・シャロワ）



リヨン第3大学からの交換留学生として、奈良教育大学に在学中のエミリー・シャロワさんと
ジョナス・アンドレーさん

◆◆◆Bonjour à tous ! Je me nomme ANDREYS Jonas, vingt ans. J'étudie à Lyon la langue, culture et littérature japonaise. Profitant de l'occasion, je me suis engagé dans un programme d'échange à Nara de septembre 2015 à août 2016. Je suis un passionné de culture japonaise, et plus particulièrement de la littérature de Heian. Bien qu'investi dans l'apprentissage du japonais, mon rêve concernant mon avenir serait de devenir un écrivain. Lors de ma première rencontre avec l'association franco-japonaise de Nara, j'avoue avoir été agréablement surpris par le fait que beaucoup de ses membres parlent un très bon français. Cela m'a été une expérience très profitable qui m'a permis de me rendre compte de l'intérêt de certains japonais pour la France, sa langue et sa culture. (ANDREYS Jonas)

みなさんこんにちは！ 私の名前はアンドレー・ジョナス、20歳です。リヨンで言語、文化、日本文学を学んでいます。機会を得て、2015年秋から2016年夏までの奈良での交換留学プログラムで来ています。日本文化が大好きで、とりわけ平安文学が好きです。今は日本語の習得に力を注いでいますが、将来の夢は作家になることです。奈良日仏協会とははじめての出会いで、とても上手なフランス語を話す会員の方たちがたくさんいることに、正直言って心地よい驚きがありました。これはとても貴重な経験で、フランス・フランス語・フランス文化に関心をもつ日本人がいることを、私に気づかせてくれました。（ジョナス・アンドレー）

2006年新春年賀レセプション（在京都フランス総領事館にて）参加報告

1月15日、在京都フランス総領事館において、新春年賀レセプションが開催されました。冒頭あいさつにおいて、シャルランリ・ブロー総領事は昨年をふりかえり、パリにおける二度のテロがあり、フランスにとっては試練の年であったが、日仏交流の分野では多くの収穫があったと述べられ、さらに2016年は、総領事館およびアンスティチュ・フランセが入っているこの建物が建造されて80周年を迎える年でもあり、さまざまな企画を予定していると抱負を語られました。

この新年会はフランス総領事館、アンスティチュ・フランセ関西、在日フランス商工会議所、フランス留学経験者グローバルネットワーク France Alumni が共に開催するもので、それぞれの関係者のあいさつが続いた後、シャンパンによる乾杯を皮切りに、出席者の懇談が始まりました。日仏協会関係では、岐阜日仏協会飯塚会長や京都日仏協会三好会長と情報交換を行う機会がありました。

〔追記〕シャルランリ・ブローご夫妻は、昨年11月29日（日）、橿原神宮訪問の帰路、奈良に立ち寄られて、奈良日仏協会役員との夕食会に出席されました。協会側からは、三野会長、野島副会長、浅井事務局長、中辻理事が出席し、2時間の予定が3時間に伸びて、和やかで打ち解けた歓談となりました。日本語も堪能な総領事と日本人の奥様との会談のなかでは、日仏の文化や生活習慣の相違について、またフランスの歴史や今日の国際情勢をめぐる話題など、自由な意見交換を行うことができました。

（三野博司）



フランス文学の庭から <43>

三野博司 (会長)

名句の花束

C'est à vous d'en sortir. 出ていくのはおまえだ。(2)
(モリエール『タルチュフ』1664年)



幕が上がると、オルゴン家の広間。主人の留守中に家族がタルチュフのうわさをしています。そこへ帰宅したオルゴンが登場しますが、加減の悪い妻を気遣うこともなく、「留守中、タルチュフさんはどうだった？」と繰り返すばかり。第2幕では、オルゴンが愛娘をタルチュフに嫁がせようと目論んで、家族の猛反発を受けます。さんざんタルチュフが話題になるのに、いっこうに舞台に姿を見せません。こうして観客の好奇心をそそっておいて、第3幕にいたって、ようやくこの偽善者がいかにも敬虔な信仰家の顔つきで登場します。この手法をゲーテは称賛したと言われています。

第4幕、テーブルの下に隠れてタルチュフの化けの皮をはがすといういかにも笑劇めいた場面を経て、オルゴンは目覚めますがあとの祭り。タルチュフに全財産を譲渡するという書類をすでに書いてしまっています。「出ていけ」というオルゴンに対して、「出ていくのはおまえだ」とタルチュフが居直るセルフが、上に掲げた句です。「軒を貸して母屋を取られる」というやつですね。「恩を仇で返す」とも言えます。自分にとって役に立つ、益になりそうだと思って内部に招き入れると、こいつが手に負えない代物で、結局は自分の命取りになるというパターンですが、これは私たちの身の回りでもいろいろな場面でありそうです。

『タルチュフ』の場合は、第5幕、偽善者のたくらみが成功する直前に、国王の使者による救済の手がのべられて、一件落着となります。いかにもあつけない幕切れですが、これはモリエールにはよくあること。彼の劇については、筋の展開は二の次で、時代の風俗や性格の描写にこそ真骨頂があるのだと言われています。

大学の授業で見ていたビデオは、1973年ジャック・シャロン演出のコメディ・フランセーズ版です。この舞台映像が、ずっとのちになって、1980年代にNHK・BS放送から日本語字幕付で放映されました。それを録画したものを毎年授業で使っていました。17世紀の町人の屋敷を再現した舞台装置が臨場感を高め、タルチュフを始めとしてそれぞれがはまり役という感じで完成度の高い舞台だと思います。数年前からは、コメディ・フランセーズ、モリエール・コレクションDVD-BOX、全15作品、日本語字幕付が発売されています。ただ、このシリーズは、舞台は狭くて装置はないというに等しく、『タルチュフ』も登場人物がのっぺりした壁の前で演技するだけ、その演技も薄っぺらく感じられます。

パリへ行くたびに、しばしばコメディ・フランセーズ劇場に足を運びます。ごく最近では、2015年11月にマリヴォー『二重の不実』を見たばかりですが、この劇場での最初の観劇体験は、1980年9月の『タルチュフ』でした。たぶんシャロン演出だったと思いますが、細部はあまりよく覚えていません。初めて入った劇場の伝統ある格調高い雰囲気だけが強い印象として残っています。

ただ『タルチュフ』の舞台を始めて見たのは、その前年の1979年、TNP（フランス国立民衆劇場）の来日公演です。フランスの劇団の引っ越し公演が大阪で見られるなどというのはもう今では考えられないですが、かつての大阪厚生年金会館中ホールで見た舞台は、ロジェ・プランション演出でした。タルチュフを若い男性に設定する

演出が当時話題になっていたと記憶しています。オルゴンは、町でみかけたタルチュフを優れた聖職者だと信じ込んで、わが家に招き入れるのですが、そこにオルゴンの隠れた欲望を読み取るというものです。つまりオルゴンは同性愛者であり、性的たくらみをもって、若い美貌のタルチュフに近づき、自分の家に住まわせるのです。まあ、そういう解釈もありかな、という感じではありますが。



東南部フランス紀行 14 日間

坂本 成彦（さかもと しげひこ）

昨年 5 月～6 月パリとリヨン、グルノーブル、アヌシー シャモニー、などフランス東南部を回ってきた。仲間夫婦 8 組と南部と一緒に回りパリでは妻と 5 日ほど気ままに過ごした。1 月にパリのシャルリー・エブドー本社でテロによる 12 名のテロ殺害事件があったが、パリは異様な雰囲気は全く感じられず、銃をもった警官は街中では見られなかった。ただ、レストランなどで必ず出会う日本人団体客と一度も遭遇しなかった。ここではシャモニー訪問を記す。

6 月 1 日（月）、シャモニー、アヌシーのホテル（標高 450m）を 8 時 30 分に出発。約 100km 先のシャモニーへバスで 1 時間半かけて向かう。シャモニー（標高 1,036m）は、ヨーロッパの最高峰モンブラン（標高 4,810m）の麓にあるリゾート地である。かつては魔の山と言われたモンブランが、医師パカールと狩人パルマという二人の村人に 1786 年 8 月 8 日征服されてから人の往来が増え、賑わい、発展してきた。ちなみに第一回冬季オリンピックはシャモニーで開催されている。

バスの中では、添乗員の花本さんからフランスの社会事情を解説していただいたり、フランスでの人気歌手の CD をきいたり、居眠りしたりで、1 時間半のバスでの移動を各人が楽しんだ。乗客が半分以上の贅沢な乗車率で極めてゆったりしたバス旅行。途中の車窓から、雲一つないモンブランの頂上が見えたときは歓声が挙がった。

予定通り 10 時にシャモニーに到着。直ぐにエギーユ・ド・ミディにロープウェイで登る。まず第 1 ロープウェイの中継駅ブラン・ド・レギーユ（標高 2,317m）までは 74 人乗りの搬器で約 8 分、次の第 2 ロープウェイの終着駅エギーユ・ド・ミディ（標高 3,842m）までは 66 人乗り搬器で約 8 分。20 分ほどで 2700m 上る。第 1 ロープウェイは 1954 年に、第 2 は翌年の 1955 年に建設されたとのことですが、よくこの時代に作ったものだと感じる。見かけはほぼ垂直のロープが張られ、いっきに富士山の頂上へ運ばれるようなもので、驚くばかり。終着駅からトンネルを抜けると狭いスペースに展望台があるが、天候に恵まれ、針峰のモンブラン山群、眼下の氷河など眺望を満喫し、集合写真を撮る。そこから 65m 上の展望テラスにはエレベーターが工事のため行けず。



エギーユ・ド・ミディからイタリア側へさらにオプションで渡る。4 人乗りゴンドラ 3 台一組が、エンドレスに動いている。国境をこえ、イタリア側のエルブロンネル駅（3,456M）に着く。その先は工事のため写真を撮って折り返して戻る。フアッとした感覚、頭がふらつくといった声も聴かれる。ゴンドラの側面には「モンブラン 4,810m」と書かれてあり、遥か下の氷河には登山者が点のように見えた。気温は摂氏 3 度とかなり高く、積もった雪が雪崩化しているところも見られた。

ここで、ハプニングが起きた。我々が降車した後、ゴンドラが途中で止まり、かなり長い時間を中吊りで過ごされたそうです。得難い体験ではあるが不安のつる時間であったと推察します。私事で恐縮ですが、留学時代にこのゴンドラに乗ったとき、風が出てきたのでこれが最終便とするから早く帰れと係りにせかされ、不安になって揺れるゴンドラに乗って帰ったことを思い出した。

シャモニー駅に 14 時 8 分帰着。いそいで昼食予定のミシュランひとつ星「Le Bistrot」へ行く。ハプニングで遅れて予約がキャンセルされる寸前のところだったそうで、花本さんの心中察します。アントレは、フォアグラ、たまねぎ、黒オリーブの刻んだもの。いずれも絶妙の味、メインは、ローストポーク。これがとても柔らかく、脂身もなく、素材と焼き加減の妙か。遅めの昼食を、近隣産で「ガメイ種」の赤ワインと共に堪能した。デザートとコーヒーで 15 時半終了。

近くのホテル「hôtel l'hélicoptère」へ落ち着いてからそれぞれ散策。小さい街なのでわかりやすい。この時期は冬のスキーシーズンとこれからの夏の観光、夏山登山の端境期でわりに静かな街でした。

フランス語との出会い

米津 春日 (よねづ はるび)

「月謝は 500 円だが払えるだけ封筒に入れてきなさい、但し 3 ヶ月以内にやめるんなら、はじめからやめておきましょう」。友人から紹介された上村清太郎先生の言葉を聞き、乏しい給料から祖母の生活費を仕送りしていた私の話を聞いて下さり、フランス語が習えるんだという、喜びで胸がいっぱいでした。そして土曜の夜、8~10 時のレッスンが始まりました。昭和 31 (1956) 年の春半ばの事でした。フランス料理に携わる者にとっては、フランス語は必修の語学です。私の他に、彫刻家の男の方と、女性で服飾関係の方 3 人で始まりました。教材は、丸山順太郎編の實用初等仏蘭西語教科書でした。他の二人は少しフランス語の下地があったので、進み方に差がついてきます。私は全くの初歩からなので、アヴォワール、エートルの直説法現在の活用から丸覚えにしなければなりません。



ポタージュの裏漉しをしながら、ジュスイ、ティエ、イレ、ヌーソーム、ヴーゼット、イルソンとお経を唱える様にして覚え、未来形、半過去形、条件法と無我夢中で暗記をしました。厳しい授業で、日、月、火と復習し、水、木、金、と予習をして土曜日の授業、全く遊ぶ暇なんてありません。他のお弟子さん二人は半年程で辞めてしまい、私ひとりになりました。一对一の授業ですから気を抜く余地はありません。もっとも、遊びたくってもお金がなかったので良かったのですが。それから、初歩の文法の教科書に進み、最後は、ベルナルダン・ド・サンピエール著「ポールとヴィルジニー」70 頁程の抄本一冊を終了しました。

先生には内弟子のように可愛がって頂き、授業が済むと、夜食をご馳走になったり、お風呂まで入れて頂く事がありました。私に出来るお礼は料理。カレーのルーを作って持参し、今日は米津風のカレーです。薬味は、紅ショウガ、福神漬け、ラッキョウなど手に入るものを、形良く小鉢に盛って添えました。「ワー こうするとカレーもご馳走だね」と皆さまの笑顔、ある時は、フルコースの真似事のようなフランス料理をしようと、先生の奥様に手伝って頂き、お皿、小鉢をあれこれ動員して頂き、何とか、料理をこしらえて、ご家族は大喜びでした。上村先生は、太平洋戦争中食料のない時に、フランス語の料理書を手に入れ、これはどんな野菜か、この調理法はどうするのかと赤でアンダーラインを入れた本を見せて下さいました。戦前に召し上がったサラダのシコレが好きだとおっしゃったので、お持ちして大層喜ばれた事もありました。仕事以外の、あるひとつの事に一生懸命打ち込んだと云う満足感と充実感。そして、得たものがたとえささやかであっても、生きていく心の支えとなり、素直な気持ちで人と付き合えるようになりました。

昭和 33 (1958) 年 3 月株式会社新大阪ホテル入社、大阪グランドホテル料理課に配属され、常原久弥氏に師事する事になりました。口数は少なく、厳しい表情で少し近寄りたいたい感じで、通常、料理長は<おやっさん>でしたが、誰からも<ムッシュ>と呼ばれていました。フランスでは職場の長に対して尊敬を込めての呼称です。



書かれたフランス語のメニューに間違いがありませんでした。普段は厨房内の、一段高い所の事務所の席から、我々の作業をじっと見守っておられました。メニュー上の料理の解らない部分を、闇雲にどうするんですかと尋ねても答えは返ってきません。下調べをしてから、「こうゆう風にして良いのでしょうか？」と聞きに行かないと教えてくれません。前もって予習をしなければ身につかないという教え方は、上村先生と同じです。フランス語で書かれた材料の割合を渡されたり、「レペルトワール」(エスコフィエの料理の手引き)の何ページにある通りにしなさいとの指示が出ます。日常のフランス語と料理用語の違いがありますが、これまで習得したフランス語のお陰で、字引を引きながら理解できる様になっていました。これまで約 2 年間学んだことは決して無駄ではありませんでした。

フランス語で読む「百人一首」：周防内侍（すおうのないし）



Reposer ma tête
sur vos bras le temps d'un songe
d'une nuit de printemps
je m'en voudrais d'exposer
mon nom pour si peu de chose
(s'en vouloir = se reprocher de)

(口語訳)

短い春の夜の、夢のようにほかない、たわむれの手枕のせいで、
つまらない浮き名が立ったりしたら、口惜しいではありませんか。

周防内侍 (11 世 紀～1109 年頃)
周防守・平棟仲の娘で後冷泉、
後三条、白河、堀河天皇に女房と
して仕える。本名は仲子 (ちゅう
し)。女房三十六歌仙のひとりで
「周防内侍集」を残した。

「名こそ惜しけれ」は「恥の文化」？

平安中期末の春弥生、月の明るい夜更け女房たちが語り明かしている時、作者が柱に寄りかかって「枕がほしいわ」とつぶやいたところ、大納言忠家が通りがかって、曰く。「これを枕にでも」と御簾の間から自分の手を差し入れたという。そこで当意即妙に答えて詠んだのがこの歌です。華やかな宮廷サロンでの即興歌にかかわらず技巧にすぐれ当時すでに高い評価を得ていたのです。それは「春の夜」「夢」「枕」などの縁語によって綴られている歌なのです。この忠家卿の孫が歌人の藤原俊成でひ孫が藤原定家です。いずれも王朝歌人で耽美派とされています。

狭い日本、多くの人間の中で、常に他人の目を意識しないわけにはいかないのです。アメリカの文化人類学者ルース・ベネディクトの日本文化論『菊と刀』(The Chrysanthemum and the Sword: Patterns of Japanese Culture, 1946)によれば、怖いのは神仏ではなく、他人の目であり、他人の口であり、他人に笑われたくない、恥をかきたくない、これが日本人の行動を規定するとのこと。つまり、正しいかどうかで行動を決めるのではなく、世間がそれをどう思うかで、自分の行動を決めるというのです。不祥事を起こした人が謝罪？するとき決まって「世間をお騒がせして申し訳ない」などといいますが、それも一例でしょうか。(中浦 東洋司)

Recette du «hachis parmentier»

むかしエクス・アン・プロヴァンスでホームステイしていた時、ミストラルの吹きつける冬の晩、お家のマダムが作ってくれた hachis parmentier に身も心も温まり、フランス版「肉じゃが」が大好きになりました。家庭ごとにそれぞれの作り方がありますが今も「おふくろの味」として思い出します。今回は知人のフランス人に作り方を教えてもらいました。(浅井)

【材料】(4 人分) ジャガイモ 500 グラム、牛ひき肉 300 グラム、タマネギ 2 個、バター 70 グラム、ピザ用チーズ 100 グラム、牛乳 150cc、パセリのみじん切り、塩、こしょう、油

【Ingrédients】(Pour 4 personnes) 500 g. de pommes de terre, 300 g. de viande de boeuf hachée, 2 oignons finement émincés, 70 g. de beurre, 100 grammes de fromage râpé, 15 cl. de lait, PM : Persil haché, sel, poivre, huile

①Faire une purée de pommes de terre. ジャガイモのピューレを作る。

(1) Bien cuire les pommes de terre à l'eau avec la peau, les éplucher et les écraser chaudes avec le beurre, un peu de sel et de poivre. 皮ごとジャガイモをゆでて皮をむき、熱いうちにバターと塩・こしょう少々を加えてつぶす。

(2) Ajouter le lait progressivement jusqu'à obtention d'une purée onctueuse.

少しずつ牛乳を加えてねっとりさせる。

(3) Incorporer à la purée la moitié du gruyère et réserver.

チーズを半分ピューレに混ぜて置いておく。

②Faire sauter les oignons finement émincés dans une poêle avec un peu d'huile.

フライパンに油を少しひいて細かく切った玉ねぎを炒める。

③ Dès qu'ils dorent un peu, ajouter la viande hachée et laisser cuire à feu modéré pendant 5 minutes environ. タマネギが少し色づいたらひき肉を加えて約 5 分中火で炒める。

④ Saler, poivrer. Ajouter le persil haché hors du feu. 塩こしょうをし、火を止めてパセリのみじん切りを加える。

⑥ Dans un plat à gratin, mettre la viande uniformément dans le fond et recouvrir avec la purée.

グラタン皿の底にピューレをしいてその上に肉を均等にのせ、さらにその上にピューレを覆いかぶせる。

⑦ Mettre le reste du fromage râpé sur la purée et faire gratiner (225 degrés pendant environ 20 minutes). ピューレの上にピザ用チーズを乗せてグラタンにする (225 度で約 20 分)。

⑧ Servir bien chaud avec un bon petit vin blanc ! 美味しい白ワインとともに、熱いうちに召し上がれ！



第 128 回 フランス・アラカルト (1/29) 参加報告

当日はあいにく冷たい雨が終日降っていましたが、会場「菜宴」はフランス文学を愛する人たちの熱気でむんむん、会が進むうちに私もモリエールの世界に魅了され、熱くなって我を忘れて夢中になっていました。はじめに三野先生が『タルチュフ』の概要を話され、続いて山本邦彦先生が重要な場面を名舞台の映像を使って示され、それらを鑑賞するうちにぐいぐい引き込まれ興味は深まるばかり、もっと見たい聴きたいと思っているうちに時間切れとなってしまいました。これから是非このような企画をたてていただけたらと願っています。

戯曲『タルチュフ』は翻訳を読むだけでも面白いのですが、フランス語で演じられるのを鑑賞すると、登場人物のキャラクターが際だち、場の雰囲気、声や話し方などから人物の内面や深層心理が透かし見え、納得したり、気付かされたり、楽しくてたまりません。山本先生がこの場面が見どころと解説された第 4 幕第 5 景、家の主人のオルゴンがテーブルの下に隠れていて観客の目には見えないのですが、ペテン師タルチュフが後妻エルミールを口説きおとそうとする意外な展開に、顔色をなくして息も絶え絶えであろう彼の様子が、私にはもっともイメージ鮮やかに想像されました。モリエールの戯曲、もっと読みたい、もっと鑑賞したい、そして何より、フランス文学っていいなあとしみじみ感じさせていただけた今回の催しでした。(石川康恵)

雨のちらつく一月の終わり、会場に入ると一転暖かい空気に包まれ、まるで開幕前の劇場ロビーのようでした。講演はまさに幕の上がった劇場さながら、1973 年の名舞台、Jacques Charon 演出の見どころを鑑賞しつつ進みました。タルチュフ役の Robert Hirsch による迫真の演技。エルミール役の Claude Winter の艶やかさ。タルチュフのくどきに応えるように、実は机の下に隠れた夫オルゴンにエルミールが語りかける場面は秀逸でした。1669 年の初演では作者モリエールの妻 Armande Béjart がエルミールを演じたそうです。自然に聞こえた劇中の会話は全編 12 音節の韻文 alexandrin だったこと。宗教界への対抗と国王への追従のため当初の三幕から五幕へ書き直したとされる作品の成立背景。喜劇を超えて家族崩壊の悲劇となる寸前の drame にも通ずる先進性。これらを特に面白く拝聴しました。時の経つのも忘れて見入り聞き入っていた講演の幕が下がると、次は自分の人生と勉学の新たな一幕を上げることができそうな気がしてまいりました。(各務奈緒子)

『タルチュフ』鑑賞を終えて

山本 邦彦 (やまもと くにひこ)

担当者から「60 分で『タルチュフ』の見どころ・聴きどころを解説するように」という依頼を受けました。さいわい手元にコメディ・フランセーズが 1973 年に収録した優れたビデオがありましたのでそれを使うことにしましたが、時間の制約上見ていただく箇所を秒単位で選り出すのに苦労しました。

まずは幕開き、第 1 幕第 1 景。タルチュフ崇拝の片棒を担ぐペルネル夫人が家族ひとりひとりをこき下ろす場面。つづいて同第 4 景。オルゴンが「で、タルチュフは？」を 4 回も繰り返す場面。3 つ目はいよいよタルチュフが登場する第 3 幕第 2-3 景。小間使いのドリーヌに胸元を隠すようにハンカチを差し出すところや「わたしは天使じゃありません」と言ってエルミールに言い寄るところが会場の笑いを誘いました。

しかし圧巻はなんと言っても第 4 幕第 4-5 景。夫を説得するためにエルミールが大芝居を打つ場面です。テーブルの下に身を潜めるオルゴン、「こっそり罪を犯すのは罪を犯すことにはなりません」と言って迫るタルチュフ、咳き込みテーブルをたたくエルミール。ジャック・シャロン、ロベール・イルシュ、クロード・ヴァンテールという稀代の名優たちによる競演の、何という贅沢！ 会場からは賛嘆の声が漏れました。

質疑応答の際に会場からは、オウム真理教を思い出したという発言がありました。確かに靈感商法や会社乗っ取り事件にも通じる話です。「モリエールは宗教をどう見ていたのか？」という質問もありました。これは今でも重要な研究テーマです。そして参加者のみなさんが一様に信じがたいという顔をされたのは、最後に私が「『タルチュフ』は全編 12 音節で韻を踏むアレクサンドランという典型的な韻文形式で書かれている」と言ったときでした。古典劇にはこの他にもみなさんに驚いていただける約束事がたくさんあったのですが、残念ながら時間切れになりました。それはそれとして、奈良女子大学を退職して 12 年、私にとっては久しぶりに教員気分に戻れた幸せな時間でした。

最後になりましたが、古いビデオを DVD に編集し直してくださったシネクラブ有志の方と会場を提供してくださった「菜宴」様にお礼を申し上げます。



会員紹介

半世紀前の「就活」

石野 俱行（いしの ともゆき）

大学のフランス語学科 4 年生の 6 月、クラスでは就活の話題で盛り上がっていました。当時の日本は高度成長期にあり各企業も採用が盛んでしたが、私は早く就職先が決まった方が気が楽と思い、某繊維メーカー（現化学メーカー）を受けることにしました。面接日に会社を訪問すると、早速今からフランス語の筆記試験を行うと告げられたのです。

「この会社には、フランス語の試験問題を作成・採点できる社員がいるのだな…」と生意気にも感心しました。試験内容は、仏文和訳と和文仏訳で、詳細は忘れましたが仏訳の主題は「フランスの石油化学工業」だったと思います。数日後、主任教授に受験の報告に伺うと、いきなり教授の口から「君の仏文和訳はまあよいとして、仏訳の方はもう一つだったな」と告げられ、私は内心「???」、まるで狐につままれたような気持ちになりました。



当時使用した教科書の現代版：フランス語初歩 II
（アシェット社発行）

後日になって、それもその筈とわかりました。この仏語の試験問題の作成も採点も当の教授だったのです。今ではちょっと考えにくいかも知れませんが、会社が大学に入社試験の問題作成を依頼したのでしょう。おかげで何とか仏語試験も合格し、今は亡き恩師の K 教授にあらためて恩を感じる次第です。約半世紀前のほろ苦い思い出です。

卒業の翌年、これでフランス語を離れて担当の貿易の仕事に専心できると思っていた頃、フランスから顧客が来るとのこと。商談の始まる前、直属の上司から、「お前はフランス語出身だったな。待たせているので、その間ちょっと話してきなさい」との指示。応接室へ急いでかけつけ、緊張しながら久しぶりのフランス語であいさつを切りだしましたが、相手のフランス人客は英語であいさつを返してきました。ささやかな自尊心も傷つき、改めてガックリでした。

「フランスワイン好き」の「ドイツ色ピアニスト」

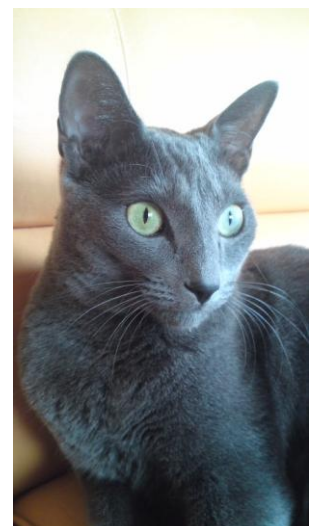
上田 賀代子（うえだ かよこ）

ボンジュール！ 数年前、ご近所つきあいとして存じ上げておりました奈良日仏協会前会長の坂本様から入会をお薦め頂き、お仲間に加えて頂きました。私は 20 代からつい最近まで、ドイツを行き来する生活が長く、みかけは正真正銘の〈日本人顔〉ですが、中味半分はドイツ色のピアニストです。

舞台活動や音大講師や piano 学院院長等活動しておりますが、5 年前から奈良モーツァルト会 2 代目会長を仰せつかり微力ですが、より良い音楽、若い才能あるプレイヤーの後援等普及につとめています。

昔からフランス語の響きが大好きで懂れていますが、自分には難しい言語です。しかしながら永らくブルゴーニュ・ワインを愛飲していますので、ワインの銘柄にまつわる発音は何とかなります（笑）。

先日シャトームートンロートシルトの歴年エチケッットを眺めていたら、画家バルチウスの妻・節子さんが描かれた 91 年の静物画がとても気に入って、無性に欲しくなりました。93 年のエチケッットはバルチウスの少女の裸像（大変物議をかました作品）です。幸い節子さんのバックヴィンテージワインを入手できました。飲み頃が 2010 となっているのでもしかしたらへたっている可能性もありますので、早めに味わいたいと思っています。ハズレでもそれはそれでよし、一期一会の楽しみです。奈良日仏協会ではワイン会等のありますことを期待しております。



愛猫「光源氏」（ロシアンブルーの雄）、通称「げん」

奈良日仏協会 会員主催の各種講座案内

(2016 年 2 月)

曜	時 間 帯	場 所	講 師	内 容、教科書	問 合 せ 先
月	19:00～20:30 NEW! 4月4日から	奈良フランスクラブ 〒630-8421 奈良市 藤原町 1028-35	オリヴィエ・ ジャメ	フランス語 Communication 入門 "Nouveau Spirale" 新しいスピラル Hachette / Pearsons 毎回仏検 5、4 級の準備	Clubfrancenara @kcn.jp 0742-62-2770 (ジャメ)
火	12:30～14:00	同上	オリヴィエ・ ジャメ	Conversation, expression, écrit et écoute / DAPF / Delf A2 仏検 "Echo 1" CLE International "A la page 2011" Edition Asahi	同上
火	19:00～20:30	同上	オリヴィエ・ ジャメ	フランス語 Communication 1 初級"Spirale" ス ピラル Hachette / Pearsons 毎回仏検 3 級の準備 完全予想 駿河台出版社	同上
水	10:30～12:00 NEW! 4月6日から	同上	オリヴィエ・ ジャメ	フランス語 Communication 入門 "Nouveau Spirale" 新しいスピラル Hachette / Pearsons 毎回仏検 5、4 級の準備	同上
水	12:30～14:00	同上	オリヴィエ・ ジャメ	フランス語 Communication 6 上級 Echo B1 (CLE International) / Vidéo DAPF-DELF	同上
木	12:30～14:00	同上	オリヴィエ・ ジャメ	フランス語 Communication 5 上級 "Echo 2" CLE International Préparation DAPF-DELF	同上
木	19:00～20:30	同上	オリヴィエ・ ジャメ	フランス語 Communication 2 中級 "Echo 1" CLE International 毎回仏検 3 級、準 2 級の準備、DELF A1, A2	同上
金	10:50～12:50	同上	オリヴィエ・ ジャメ	フランス語 Communication 3 中級 DAPF-DELF 会話 作文 ヒアリング 聞き取り 書き取り 仏検読書 "Echo 2" CLE International Bande dessinée : Tintin Objectif Lune	同上
土	毎月 2 回 13:30～15:30 (2/20...)	同上	オリヴィエ・ ジャメ	Interprétation-Traduction 通訳翻訳講座 (Introduction aux techniques d'interprétation et de traduction) 仏検準一級、一級	同上
土	毎月 1 回 11:00～13:00 (次回は 5/28)	同上	オリヴィエ・ ジャメ 浅井直子	「ジャメ先生と漱石の『書簡』を読む」 日仏 2 カ国語による比較文学・比較文化・フ ランス語翻訳の講座	同上 0743-74-0371 (浅井)
日	2 ヶ月に 1 回 14:00～17:00 (2/14, 4/10...)	同上	オリヴィエ・ ジャメ	Mélodies de Claude Debussy (NEW !) A chaque séance deux mélodies de Claude Debussy sont étudiées (prononciation et traduction en japonais)	同上
日	毎月 2 回 10:30～12:30 (2/7-21, 3/6-27 ...)	同上	オリヴィエ・ ジャメ	会話、作文、ヒアリング、聞き取り、書き取り、仏検 読書/DELF	同上
日	毎月 1 回 14:00～16:00 (2/21, ...)	同上	オリヴィエ・ ジャメ	Séance de lecture et de discussion (Articles du Nouvel-Observateur...) 読書・討論会 (仏検、DELF/DALF)	同上
火	毎月 1 回 14:00～16:00 NEW! 5月31日から	生駒市中央公民館	浅井直子	ブルースト講読:『失われた時を求めて』から抜粋 したフランス語の原文テキストを、日本語訳と画像 関連資料を参照しながら、精読します。	Nasai206@gmail.com 0743-74-0371 (浅井)
火	毎月 1 回 14:00～16:00 NEW! 5月17日から	生駒市中央公民館	浅井直子	ブルースト読書会:『失われた時を求めて』を現在 刊行中の岩波文庫版で、第1巻から読んでいきま す。フランス語は読めなくても読書好きな方歓迎!	同上
火	毎月第 2 火曜日 13:30～15:00	京橋 studio-J	梨里香	フランス語で歌うシャンソン	studioj-nktj @occn.zaq.ne.jp 06-6922-6502 (中辻)
月	毎月 2 回月曜 13:30～15:00	三宮 Mint 神戸 17F	中辻純子	フランス語を歌って学ぼう! …歌唱法やフランス語 を丁寧に指導します。	同上

月	毎月 2 回月曜 15:15~16:45	三宮 Mint 神戸 17F	中辻純子	ボンジュールからはじめましょう! ... 日常会話から文法、発音等までわかり易く指導します。	Studio-j-nkti@occn.zaq.ne.jp 06-6922-6502 (中辻)
木	毎月 2 回 木曜 18:30~20:00	京橋 studio-J	中辻純子	やさしいレクチャー 中級以上の方対象 簡単な短編やニュースを講読します。	同上
金	毎月 2 回 金曜 10:30~12:00	京橋 studio-J	中辻純子	やさしいフランス語① 日常会話からフランス語の基礎と文法を学びます。	同上
木 金	毎月第 1 木曜 13:30~15:30 第 2 金曜 9:30~11:30	学園前西部公民館	仲井秀昭	BON MOMENT 素敵な時間をボンジュールから。初心者も既修者も歓迎! 日常会話、詩、映画、料理のレシピ、そしてフランス文化と生活	bonjournara@gmail.com 070-5504-1881 (仲井)
水	毎月第 3 水曜 11:00~13:00 (3/16, 4/20)	ビストロルノール (生駒市松美台)	北田浩久	Salon Le Nord : 家庭で作りやすいようにレシピを再構築し、気負わずにできてしまうフランス料理教室。プロのちょっとしたコツも教えます。	ビストロルノール 0743-75-9555 (北田)

2016 年度新講座の案内

「フランス語 Communication 入門」

(1) 月曜日 19:00~20:30 (4 月 4 日から)

(2) 水曜日 10:30~12:00 (4 月 6 日から)

☆場所: 奈良フランスクラブ (奈良市藤原町 1028-35)

☆教材: "Nouveau Spirale" 新しいスパラル Hachette / Pearsons

☆毎回仏検 5 級と 4 級の準備をします。

☆連絡先: 0742-62-2770 (オリヴィエ・ジャメ) mail: Clubfrancenara@kcn.jp



「フランス歌曲: Mélodies de Claude Debussy」

☆場所: 奈良フランスクラブ (奈良市藤原町 1028-35)

☆日曜日 (2 か月に 1 回) 14:00~17:00 (次回は 4 月 10 日)

☆毎回クロード・ドビュシーの歌曲 2 曲を学習 (発音と日本語訳) します。

☆連絡先: 0742-62-2770 (オリヴィエ・ジャメ) mail: Clubfrancenara@kcn.jp



「ブルースト読書会」

☆日時: 毎月 1 回火曜日 14:00~16:00 (5 月 17 日から)

☆場所: 生駒市中央公民館第 2 研修室

☆受講料: 会員 1,000 円 一般 1,200 円 ☆教材: 岩波文庫、吉川一義訳『失われた時を求めて』(各自で購入)、毎回プリント配布 (受講料に含まれる)

☆連絡先: 0743-74-0371 (浅井直子) mail: Nasai206@gmail.com

☆ブルーストの『失われた時を求めて』は全 7 篇、原文で 3000 頁、日本語訳は 400 字詰原稿用紙で 1 万枚近くになる長大な小説です。日本を代表するブルースト研究者・吉川一義氏による新しい翻訳が現在、岩波文庫から刊行中です。この吉川訳による全篇読破を目標に、「ブルースト読書会」を開講します。2016 年は第 1 篇『スワンの恋』と第 2 篇『花咲く乙女たちのかげに』、2017 年は第 3 篇『ゲルマントの方へ』と第 4 篇『ソドムとゴモラ』、2018 年度は第 5 篇『囚われの女』と第 6 篇『消え去ったアルベルチヌ』、2019 年度は第 7 篇『見出された時』(最終) と、約 3 年半で全 7 篇を読み終える予定です。日本語による読書の楽しみ、互いに忌憚のない感想を述べあう面白さを、一緒に味わってみませんか。



「ブルースト講読」

☆日時: 毎月 1 回火曜日 14:00~16:00 (5 月 31 日から) ☆場所: 生駒市中央公民館第 2 研修室

☆受講料: 会員 1,000 円 一般 1,200 円 ☆教材: 毎回プリント配布 (受講料に含まれる)

☆連絡先: 0743-74-0371 (浅井直子) mail: Nasai206@gmail.com

☆『失われた時を求めて』(À la Recherche du temps perdu) をフランス語で読む講座では、「樹木」(arbre) と「花」(fleur) に関する断章を選んで精読します。ブルーストにおいて、樹や花の描写が小説全体の主題とどのように関わっているのか考察しながら、現実の花や樹木の画像資料を参照しつつ、原文テキストを読んでいきます。

第 1 回 5 月 31 日: 「コンプレの家のマロニエの木」

第 5 回 10 月 18 日: 「メゼグリーズのリンゴの木」

第 2 回 6 月 21 日: 「ヴィヴォンヌ川のスイレン」

第 6 回 11 月 15 日: 「ブローニユの森の木立、神話の木々」

第 3 回 7 月 19 日: 「コンプレの教会の祭壇のサンザシ」

第 7 回 12 月 20 日: 「馬車から見たユディメニルの 3 本の木」

第 4 回 9 月 20 日: 「メゼグリーズのサンザシの小道」

第 8 回 1 月 24 日: 「白いナシの木: サン＝ルーとラシェルの恋」

第 129 回 フランス・アラカルト「フランス絵画：生命讃歌〜ルノワールの芸術」(3/12) 案内

❖ 日時：2016 年 3 月 12 日（土）15:00～17:00 ❖ 会費：会員 1000 円、一般 1500 円

❖ 会場：「菜宴」（奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F TEL: 0742-26-0835 近鉄奈良駅近く）❖ 問い合わせと申込先：Nasai206@gmail.com tel & fax : 0743-74-0371（浅井）

❖ ゲスト：南城守さん（略歴）美術家・キュレーター、奈良県立美術館学芸課長。専門は近・現代美術。デッサン（素描）とリアリズム（写実）の展覧会に多数関わる。国際現代アート展なら 2014・15（前・後期展）を企画。著書に「デッサン学入門〜創意の源泉を探る」「素描学の愉しみ〜日本美術篇」（ふくろう出版社）など。

❖ 南城守さんからのメッセージ：豊麗な色彩で女性美を謳歌したルノワール。ルノワールには、芸術とは人生に希望と喜びを与えるものでなければならぬ、という信念がありました。幼い頃から絵付け職人としての技術を身につけ、印象派の画家達の中でも最も華麗なスタイルを確立したルノワール絵画の魅力を探ります。

❖ 当日は今年度新入会員の河野美紀子さんによる「よし笛」の演奏もあります。

**第 40 回 奈良日仏協会シネクラブ例会 (2/28) 案内**

★ 2 月 28 日（日）13:30～17:00 ★ 奈良市西部公民館 5 階第 4 講座室にて

★ プログラム：アラン・レネ監督『愛して飲んで歌って』（Aimer, boire et chanter, 2014 年, 108 分）

★ 飲み会：例会終了後「味楽座」にて ★ 参加費：会員無料、一般 300 円 ★ 問合わせ：Nasai206@gmail.com（予約不要）



★ 日本では昨年 2 月に公開されたばかりのアラン・レネの遺作。原作はイギリス人劇作家アラン・エイクボーンの戯曲 Life of Riley（お気楽な生活）。3 組の夫婦が登場、彼らは友人のジョルジュが末期ガンで余命半年と知り、各人が自分こそ彼の残り少ない彼の人生をよいものにできると自負し右往左往。ジョルジュは姿を見せぬまま登場人物たちの心理を左右し、隠れていた事実が露わになる。演劇と人生が交錯しつつ展開する夢幻的ドラマ。

《2015 年度第 8 回理事会報告》

……事務局

日時：2015 年 1 月 14 日（木）15:00～17:30

場所：カフェ・ルーチェ 出席者：三野、野島、井田、濱、浅井、中浦、高島

議題 1. 2015 年度の会員数確定：98 件 103 名。

議題 2. 11/19 理事会後の活動：秋の教養講座(11/23)、総領事夫妻との夕食会(11/29)、奈良中央郵便局私書箱廃止(12/31)。議題 3. 今後の行事：フランス総領事館年賀レセプション(1/15)、第 128 回フランスアラカルト「フランス演劇鑑賞」(1/29) Mon Nara 本号報告、第 40 回シネクラブ例会(2/28)、第 129 回フランスアラカルト「ルノワールの絵画」(3/12) 開催承認、「登美南教養セミナー」(6/22, 29) 放送大学と共催、承認。議題 4. 会則の改正、承認。

議題 5. 2016 年度役員候補承認。議題 6. 年次総会(2/11) 開催に向けて審議。議題 7. Mon Nara

次回理事会 3 月 17 日（木）15:00～16:30

**会員通信**

★ 3 月 12 日（日）16:00、シャンソンガラコンサート、大丸心斎橋劇場、梨里香出演。

連絡先：06-6922-6502（中辻）

★ 3 月 27 日（日）、奈良モーツァルト会定例会「村山卓洋ピアノリサイタル・イン岡山備前市レマーニ」貸切バスにて。

連絡先：090-2193-3295（上田）

★ 3 月 27 日（日）13:00、藤村久美子と仲間たちの演奏会、宇陀市ホワイエ・ヴェールにて。

連絡先：090-8751-6408（藤村）

編集後記 ★ 冬に葉を落とした樹木に寄生し樹上に球体を作って青々とした葉をつける「ヤドリギ」(gui) は、その不思議な生命力のために古代ケルト人から神聖視されていたそうです。★ 日本では「保与」(ほよ) という名で大伴家持によって万葉集に詠われ、やはりその強い生命力が愛でられています。★ 「あしひきの山の木末のほよ取りてかざしつらくは千年寿くとそ」(山の木の梢のヤドリギを取って髪にさしたのは、いつまでも無事であるようにと願う気持ちゆえ) (巻 18-4136)。★ 『源氏物語』『宇治十帖』第 5 帖「宿木」の巻では、晩秋に宇治を訪ねた薫が中の君に贈る歌の中に山木にからまる「葛」のことが詠まれています。★ イギリスの人類学者ジェームズ・フレイザー『金枝篇』(The Golden Bough, 1890) では、樹木生い茂る聖なる森の奥にある「ヤドリギの枝」(黄金の枝) をめぐる様々な伝説が壮大なスケールで語られています。★ 先日、ついに平城宮跡近くで落葉した樹に丸く緑の葉を茂らせたヤドリギを見つけ、とても嬉しい気持ちになりました。(N. Asai)

◆ 当協会では**会員を募集**しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。

◆ 本誌への投稿、特に新鮮で多様な話題、ホットなフランス情報などを歓迎します。誌面の都合で意味を極力変えずに表現を変えさせていただくことがあります。次号は**3月31日**が原稿締切日です。

Mon Nara jan-fev 2016 **1-2 月**合併号 numéro273

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP : <http://www.afjn.jp> E-mail : nara.afj@gmail.com FAX : 0742-62-1741

〒630-8226 奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F 野菜ダイニング菜宴[郵便物のみ] 発行責任者：三野博司